



# 協 造 日 報

www.jalc.or.jp

第400号  
2007年7月10日

発行 / 社団法人日本造園建設業協会 (Japan Landscape Contractors Association) 創刊 / 昭和49年6月1日 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3 麹町中田ビル9階 TEL 03(3263)3039 FAX 03(3263)3856

## 本号の主な内容

- 2面 平成19年度事業計画  
平成19年度日造協協会表彰
- 3面 【技術レポート No.026】  
チェンマイ富士を見ながら5ヶ月  
【事務局日より】
- 4面 【総・支部日より】  
千葉県支部・福井県支部・大分県支部



総会の冒頭、あいさつする佐藤会長

## 通常総会を開催

### 7 議案を審議・承認

平成19年度通常総会が6月20日、東京・千代田区のグランドプリンスホテル赤坂で開催され、平成18年度事業・収支決算報告、平成19年度事業計画・収支予算案など7議案が審議・承認された。

総会は冒頭、佐藤四郎会長があいさつ(別掲)。来賓を代表し、中島正弘・国土交通省都市・地域整備局長が「日造協は資格制度の創設・活用など、技術向上に積極的に取り組む団体として認識している。公共事業は縮減続きだが、緑を大事にしよ」という活動は盛んになり、フォロワーの風は吹いている。しかし、地方では緑化に対する理解を得にくいなどの課題もある。環

境問題が大きなテーマとなっている今日、皆さんの技術が欠かれない。引き続き「協力いただきたい」と祝辞を述べた。

次いで、各種協会表彰の授与式を開催(受賞者2面)

また、定款の一部変更で、新事務所(別掲)への移転を承認し、国土交通大臣に許可申請を行うこととなった。

選任では、城處実行理事が退任、後任に岡部安水氏(7道路保全技術センター理事)が就任した。

### 夢のある造園建設業に

#### 平成19年度事業計画の概況

1992年の「地球サミット」の開催以来、環境問題が重要な政策テーマとされるなか、人類の生存には、良質な環境が必要であり、一國一地域の枠を越えて、地球レベルで良質な環境を作り上げ、守ってゆかねばならないということが多くの人々に認識されつつあります。21世紀が「環境の世紀」、

「緑の世紀」と言われるのも、このような動向を踏まえてのことでありましょう。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

「京都議定書」に基づいた地球温暖化対策への取組みの中で、「生物多様性」を考へていくうえで、緑の役割が注目されているのみならず、「少子高齢化」の時代における活力ある経済社会を維持し、継続させるた

め、また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

造園建設業界としては、このような流れを事業拡大へのチャンスと受けとめ、時代の主役産業となるための活動を強力に継続してゆかねばなりません。

この時代の主役となる決意です。国土交通省におかれましては、ぜひとも、公園緑地事業の一層の推進をお願いしたいと思います。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

### 通常総会開催にあたって

(社)日本造園建設業協会 会長 佐藤 四郎

平成19年度通常総会開催にあたり、「出席いただきました来賓の皆様、会員の皆様」に御礼を申し上げます。また、賛助者のために著しい貢献をされた方や職務上顕著な成果を挙げられた方、多量にわたり職務に精励された方など、表彰される56名の皆様にも、「出席いただき、これまでの業績に敬意を表します」とともに、これからは協会の発展のために「支援・協力」をお願い申し上げます。

この節目、園建設業の団体として、この節目の年にあわせ会員による「全国造園フェスティバル2006」を開催し、市民の皆様は「花と緑で美しい日本を」を体験していただくことができました。

計画的に確保された自然と共生する魅力的な都市の実現を図るため、各種の施策を推進しております。

この時代の主役となる決意です。国土交通省におかれましては、ぜひとも、公園緑地事業の一層の推進をお願いしたいと思います。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

平成19年度通常総会開催にあたり、「出席いただきました来賓の皆様、会員の皆様」に御礼を申し上げます。また、賛助者のために著しい貢献をされた方や職務上顕著な成果を挙げられた方、多量にわたり職務に精励された方など、表彰される56名の皆様にも、「出席いただき、これまでの業績に敬意を表します」とともに、これからは協会の発展のために「支援・協力」をお願い申し上げます。

この節目、園建設業の団体として、この節目の年にあわせ会員による「全国造園フェスティバル2006」を開催し、市民の皆様は「花と緑で美しい日本を」を体験していただくことができました。

計画的に確保された自然と共生する魅力的な都市の実現を図るため、各種の施策を推進しております。

この時代の主役となる決意です。国土交通省におかれましては、ぜひとも、公園緑地事業の一層の推進をお願いしたいと思います。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

## 8月1日 新事務所に移転

【住所】〒113-0003

33 東京都文京区本郷2丁目17番17号 井門本郷ビル2階【TEL】03-56684001【FAX】03-56684002

【交通機関】 東京メトロ丸の内線「本郷三丁目」1番出口・徒歩5分 都営大井町線「本郷三丁目」3番・5番出口徒歩5分 都営三田線「水道橋」A6出口徒歩8分 JR・総武線「水道橋」東口徒歩10分【業務開始】平成19年8月1日



そのような造園建設業界を巡る環境の中で平成19年度は一般競争入札の拡大、総合評価方式の拡大等新たな入札制度改革が国での試行から、地方公共団体へ拡大するとともに、その適用がさらに広範囲の事業規模に対してよりきめ細かく適用される方向へと移行して行く事となりましょう。そのため、造園建設業界としても「造園事業は造園専門「事業者」の原則のもと、造園技術力の評価にあたって、造園技術を適正に評価できる体制の整備、造園関連認定資格の評価ならびに、適正な利益を確保し企業としての健全な発展ができる調査価格の設定による適正価格での競争の推進など、引き続き造園事業の特性を活かした適用を要望して参ります。

また、「VISION21」の目標を達成するために、重要となり

ます。一方、一般市民の皆様は造

を旨として、会員相互間の造園関連技術の蓄積と技術情報の共有を図るための技術交流会を実施することにも、伝統的造園技術の粋を有する会員の技術者から中堅・若手技術者に継承するための活動を試行することとして

なす。また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。

また、東海地震に代表される震災等の災害に対する防災安全対策として、緑の緑地の公園の確保に大きな期待がかけられています。



# 日造協 協会表彰 56氏の業績など称える



当協会通常総会の席上、平成19年度の造園建設功労賞15名、業績表彰25名、勤続精励表彰15名、感謝状1名の表彰を行った。受賞者は表の通り。

造園建設功労賞

総支部	支 部	氏 名	年 齢	所 属
北海道	北海道	早坂 有弘	55	㈱国策
東 北	宮 城	石野 陽一	57	㈱東北緑進総合
関東・甲信	千 葉	山下 純一	59	㈱赤門
"	東 京	加勢 充晴	57	加勢造園㈱
"	長 野	福士 正直	65	(有)軽井沢総合サービス
北 陸	新 潟	八幡 三蔵	68	㈱本間造園
中 部	岐 阜	小栗 達弘	63	㈱岐阜造園
近 畿	大 阪	梅原 二郎	59	尊農社緑地㈱
"	和歌山	高幣 久敬	67	㈱志野造園土木
中 国	岡 山	佐能 賢治	67	㈱佐能山園
四 国	愛 媛	高須賀 傳	72	高須賀緑地建設㈱
九 州	佐 賀	久保 和男	64	㈱葉隠緑地建設
"	熊 本	佐藤 保夫	58	伊勢造園建設㈱
沖 縄	沖 縄	仲本 善正	62	(有)仲本造園土木
本 部		小坂橋 二三男	60	緑造園デザインコンサルトオガバー

業績表彰

総支部	支 部	氏 名	年 齢	所 属
北海道	北海道	成澤 靖幸	55	㈱イノタニ
関東・甲信	茨 城	中村 澄夫	63	㈱千本杉
"	群 馬	久保田 洋兒	69	(有)久保田造園
"	埼 玉	高柳 邦之	83	森林公園観光㈱
"	"	田村 正雄	63	㈱庭研
"	千 葉	朝倉 実	57	㈱堀之内造園
"	"	角田 敬一	47	植忠造園土木㈱
"	東 京	小野 廣次	59	西武造園㈱
"	"	杉山 直樹	57	㈱石勝エクステリア
"	"	伊藤 幸男	49	㈱日比谷アメニス
"	神奈川	鈴木 豊	64	相原造園土木㈱
"	"	草柳 豊	58	㈱原中国
"	"	田口 正典	45	㈱田口園芸
"	山 梨	小林 稔蔵	60	㈱雲松園
"	長 野	青木 和彦	55	㈱園建
北 陸	富 山	中曾根 勝人	53	㈱中曾根造園
中 部	岐 阜	高野 勉	53	イビデングリーンテック㈱
"	三 重	久保田 健兒	62	㈱東海美松園
近 畿	福 井	金光 昭英	61	(有)南造園
"	京 都	寺石 隆一	49	㈱寺石造園
"	大 阪	坂本 泉	59	㈱三芳園
中 国	広 島	宮崎 信之	53	㈱有斐園
"	島 根	高橋 道夫	74	(有)高橋造園
四 国	高 知	矢野 靖彦	51	㈱双葉造園
九 州	鹿 児 島	落司 満洲夫	75	(有)肝属造園

感謝状

総支部	支 部	氏 名	年 齢	所 属
中 国		伊井 勝子	64	中国総支部事務局

勤続精励表彰

総支部	支 部	氏 名	年 齢	所 属
東 北	宮 城	阿部 滋	60	㈱ガーデン二賀地
関東・甲信	神奈川	吉村 寛治	62	横浜庭苑㈱
"	山 梨	小野 訓孝	59	㈱富士グリーンテック
北 陸	石 川	木本 繁	67	㈱ランドスケープ開発
近 畿	滋 賀	八木 覚	53	花文造園土木㈱
"	兵 庫	山口 俊二	60	入谷緑地土木㈱
"	奈 良	川端 彰	58	近鉄造園土木㈱奈良営業所
四 国	香 川	渡辺 俊秀	54	(有)半田植物園
九 州	福 岡	重富 眞次郎	56	㈱北川緑地建設
"	大 分	釘宮 義明	52	ウメサン㈱
"	"	楠野 耕市	51	㈱九環緑地建設
沖 縄	沖 縄	新崎 盛文	67	中部緑地土木㈱
"	"	新崎 洋子	58	中部緑地土木㈱
本 部	兵 庫	藤沢 昭則	55	兵庫県支部事務局
"	本 部	河原 幸恵	53	本部事務局

1 関係省との意見交換  
国土交通省、環境省等と意見交換を行う。

2 税制への要望  
緑に関連する税制の改正要望を行う。

3 産産連等との意見交換  
国土交通省との建設産産連等団体連合会との意見交換会に出席する。

3 造園継続教育制度  
(造園CPD)の活用  
造園CPD協議会構成団体として制度の普及と会員の募集を行う。

3 第34回全国造園デザインコンクールの実施  
造園を目指す若者に夢と意欲を持つていただくために、全国高等学校造園教育研究協議会(社)ランドスケープコンサルタント協会と共催で、全国造園デザインコンクールを実施する。

4 全国造園フェスティバルの開催  
昨年引き続き、会員参加による全国造園フェスティバルを全国で開催し、行政、市民の皆様へ造園建設業を知り、理解していただく活動を進める。

5 表彰及び顕彰への推薦  
叙勲・褒章、国土交通大臣表彰、都市緑化及び都市公園整備・保全美化運動における都市緑化功労者表彰、優秀施工者国土交通大臣顕彰候補者の推薦を行う。

6 造園・環境緑化産業振興会(社)日本造園建設業協会、(社)日本植木協会、(社)日本造園組合連合会、(社)ランドスケープコンサルタント協会、(社)日本公園施設業協会(の)活動  
環境緑化思想の普及、造園・環境緑化技術の振興の立場から直面する課題に、関連分野が連携して第11回環境・緑化産業展(エコ・グリーンテック)へ出展し、一般市民等に日造協の事業活動等広報活動を行う。

7 機関紙の発行  
広報日造協を毎月発行し、会員に最新の情報を提供するとともに広く造園建設業の活動を知っていただくために配付する。

8 会員名簿の発行  
以下の図書を発行する。  
街路樹剪定ハンドブック  
植栽基礎整備ハンドブック  
植栽基礎整備  
調査のてびき  
植栽基礎診断士  
フィールド手帳  
造園安全衛生管理の手引き  
街路樹形再生の手引き

1 全国造園業協会との連携  
全国の各都道府県造園建設業協会との施策の推進、事業活動の遂行、事務局の効率的運営、組織の強化を図る。

2 2IFPRAとの交流  
国際公園・レクリエーション管理行政連合(2IFPRA)の会員として国際交流を図る。

3 IFILAとの交流  
国際造園家連盟(IFILA)の会員幹事として国際交流に努める。

4 安全運動の推進  
建設業労働災害防止協会の造園工事業に係る建設業労働安全衛生マネジメントシステム構築のためのマニュアル及び危険性又は有害性等の調査マニュアルの開発等に協力する。

4 要請活動の展開  
新しい入札契約制度改革が進む中で、造園建設業として「造園工事は造園建設業に発注を」という原則実現のために必要となる要請活動を展開する。

4 第45回技能五輪全国(千葉)大会への参加  
運営委員・競技委員を派遣する。また、造園職種に出身し優秀な成績を収めた者を表彰する。

5 表彰及び顕彰への推薦  
叙勲・褒章、国土交通大臣表彰、都市緑化及び都市公園整備・保全美化運動における都市緑化功労者表彰、優秀施工者国土交通大臣顕彰候補者の推薦を行う。

6 造園・環境緑化産業振興会(社)日本造園建設業協会、(社)日本植木協会、(社)日本造園組合連合会、(社)ランドスケープコンサルタント協会、(社)日本公園施設業協会(の)活動  
環境緑化思想の普及、造園・環境緑化技術の振興の立場から直面する課題に、関連分野が連携して第11回環境・緑化産業展(エコ・グリーンテック)へ出展し、一般市民等に日造協の事業活動等広報活動を行う。

7 機関紙の発行  
広報日造協を毎月発行し、会員に最新の情報を提供するとともに広く造園建設業の活動を知っていただくために配付する。

8 会員名簿の発行  
以下の図書を発行する。  
街路樹剪定ハンドブック  
植栽基礎整備ハンドブック  
植栽基礎整備  
調査のてびき  
植栽基礎診断士  
フィールド手帳  
造園安全衛生管理の手引き  
街路樹形再生の手引き

1 会員の実態調査  
造園事業の近代化を図る基礎資料を得るため、昭和58年から実施している実態調査を行う。これは、国・地方公共団体への要望活動を行う時のバックデータとして非常に貴重な資料となります。

2 業務領域拡大プログラムの実現に向けた検討  
戦略開発特別委員会検討された事項について検討を行う。

3 造園のスマートシステムの研究  
「こぼれよう 育てよう」みどりの都市、全国大会、春季における都市緑化推進運動、全国都市緑化フェア、都市緑化月間、まちづくり月間、「日本の景観を良くする国民運動推進会議全国大会」道路わかれ月間、河川護国月間、住吉月間、工場緑化推進全国大会等に協力する。

4 植栽基礎技術の検討  
設計施工一括発注等入札制度改革で話題となっている課題を踏まえ、造園にふさわしいものづくりと評価のあり方について検討提案を行う。

5 街路樹に関する調査研究  
街路樹の樹形、剪定技術の向上に向けた検討を行う。

6 環境にやさしい取り組みの推進  
資源の有効利用の啓発を行い、移植やみどりのリサイクル講習会を開催する。

7 企業基盤の強化と活性化  
造園工事に携わる人の処遇改善及び、雇用する企業の経営盤強化につながる、造園工事の掛りや労務費の向上のための検討、啓発を行う。

第2 公園緑地、道路、河川、住宅、工場、学校等の緑化政策に対する協力

1 AIPHとの交流  
国際園芸博覧会の認証機関である国際園芸協会(AIPH)の日本代表会を顧問として、総会やスプリング・ミーティング等へ出席する。

2 海外日本庭園への貢献  
海外の日本庭園の適正な維持管理に貢献できるように調査を行う。

3 雇用改善推進事業の実施  
雇用改善事業の推進を図るために、雇用管理責任者会議並びに講習会を実施するとともに、人材育成と資格制度の普及、労働安全管理の推進、若年者の入職促進のための事業を実施する。

4 技術情報の蓄積と提供  
各種造園関連技術の蓄積と共有に会員間での技術情報共有を行うための発表会を開催する。

5 研修・講習会  
街路樹剪定士制度の確立のため、街路樹剪定士指導員レベルアップ研修会を行う。また更新時期を迎える方を対象に、更新研修を実施する。  
植栽基礎診断士・植栽基礎講習会  
植栽基礎診断士補研修会  
造園技術講習会の開催  
造園技術講習会の開催  
植栽・移植・植物育成技術の研修を実施する。  
みどりのリサイクルガイドライン普及の講習会を開催する。  
造園技術者のレベルに合わせた資格取得プログラムを実施する。

6 資格認定・試験  
造園基礎技能者(○日本造園組合連合会と共催)の試験を実施。認定する。  
街路樹剪定士・街路樹剪定士指導員の試験を実施。認定する。

7 造園・環境緑化に関する普及啓発及び広報活動並びに機関紙、図書等の刊行

# 平成19年度事業計画

1 資格認定・試験  
造園基礎技能者(○日本造園組合連合会と共催)の試験を実施。認定する。  
街路樹剪定士・街路樹剪定士指導員の試験を実施。認定する。

2 研修・講習会  
街路樹剪定士制度の確立のため、街路樹剪定士指導員レベルアップ研修会を行う。また更新時期を迎える方を対象に、更新研修を実施する。  
植栽基礎診断士・植栽基礎講習会  
植栽基礎診断士補研修会  
造園技術講習会の開催  
造園技術講習会の開催  
植栽・移植・植物育成技術の研修を実施する。  
みどりのリサイクルガイドライン普及の講習会を開催する。  
造園技術者のレベルに合わせた資格取得プログラムを実施する。

3 造園継続教育制度  
(造園CPD)の活用  
造園CPD協議会構成団体として制度の普及と会員の募集を行う。

3 第34回全国造園デザインコンクールの実施  
造園を目指す若者に夢と意欲を持つていただくために、全国高等学校造園教育研究協議会(社)ランドスケープコンサルタント協会と共催で、全国造園デザインコンクールを実施する。

4 全国造園フェスティバルの開催  
昨年引き続き、会員参加による全国造園フェスティバルを全国で開催し、行政、市民の皆様へ造園建設業を知り、理解していただく活動を進める。

5 表彰及び顕彰への推薦  
叙勲・褒章、国土交通大臣表彰、都市緑化及び都市公園整備・保全美化運動における都市緑化功労者表彰、優秀施工者国土交通大臣顕彰候補者の推薦を行う。

6 造園・環境緑化産業振興会(社)日本造園建設業協会、(社)日本植木協会、(社)日本造園組合連合会、(社)ランドスケープコンサルタント協会、(社)日本公園施設業協会(の)活動  
環境緑化思想の普及、造園・環境緑化技術の振興の立場から直面する課題に、関連分野が連携して第11回環境・緑化産業展(エコ・グリーンテック)へ出展し、一般市民等に日造協の事業活動等広報活動を行う。

7 機関紙の発行  
広報日造協を毎月発行し、会員に最新の情報を提供するとともに広く造園建設業の活動を知っていただくために配付する。

8 会員名簿の発行  
以下の図書を発行する。  
街路樹剪定ハンドブック  
植栽基礎整備ハンドブック  
植栽基礎整備  
調査のてびき  
植栽基礎診断士  
フィールド手帳  
造園安全衛生管理の手引き  
街路樹形再生の手引き



### 技術レポート No. 026

## チェンマイ富士を見ながら5ヶ月 「ロイヤルフローラ・ラーチャブルック」の日本庭園について

箱根植木(株) 伊澤 哲

#### 現地体制

施工に当たった5ヶ月間の季節は、簡単に言うと、毎日夏。

私たち常駐メンバーは3名、現地の通訳兼運転手で1名(タイ人)、計4名のチームでスタート。

施工協力は、外構(土木・植栽)工事で1社、木工事・電気工事各1社計3社の協力により施工が始められ、海外エリアでの出展が一番乗りのため、廻りは裸地状態、施工は隣の空き

チェンマイ国際園芸博覧会概要  
名称:「ロイヤルフローラ・ラーチャブルック2006」  
開催地:タイ王国チェンマイ市  
会期:2006年11月1日~2007年1月31日  
出展面積:約1,500㎡  
工事期間:2006年6月~10月



#### 施工

地を利用し順調に進めることができた。  
初めの間は見学コースの一部で、タイ政府関係の大型バスが毎日何台も前を通り手を振る、たまに記念撮影の付合いつ時もあり博覧会の宣伝に貢献したと思われる。タイの人かなり写真好きで、行事があるたびに記念撮影を行った。

(写真1)

タイ側の外構工事メンバーは、監督以下3名の計4名が現場担当、5ヶ月間の付き合いとなった。  
監督は英語が堪能だが、



写真1



写真2



写真3



写真4

後の3人のうち2人は私たちと同じ英語のみ、現場での単純な作業は通訳なしでも済んだ。  
私たちはタイ語を覚える覚悟で現場に臨んだが、結局現場で使うタイ語は挨拶のみ、アフターで使うタイ語のほうがよく覚えた。

打合わせは通訳を含め間違えないよう綿密に行っていた。通訳も工事の状況に慣れ、しばらくすると作業の要求1つが3~4倍の通訳になっており、どうも肉付けしているようだ。誤解を招く恐れがあるなど、要求以外の通訳はしな

どがあり、信じられないと言った風で、私たちの作業に慣れるまで時間が掛かった。  
施工に関して、細かい作業は上手く、左官や右張りなど安心して見ることができ、中には垣根の結び方を数時間では完璧に覚えてしまふ作業員もあり、施工全般にかなり協力してもらい非常に助かった。

安全面は少しとぼしく、レッカーの助手はさすがに安全靴を履いているが、我々手元に付く作業員は裸足同然、せめて靴だけは履かせてくれと監督に頼んだ。

タイ時間とは普通1~2時間遅れが当たり前の時間サイクルのようだ、2時間以内なら遅れのうちに入らないらしい。そんな中、我が協力会社は、比較的時間を守るが、博覧会協会はタイのスタイル、  
極めつけは、日本からのコンテナ到着時、初めての海外からの搬入としてセレモニーをやることので、

予定は朝10時であった。荷は博覧会場近くに来てくれる恐れがあり、石が崩れる間にモルタルを見えないように詰め、上を張りして流失を防ぐようにした。  
雨の降る時間は短い質問は降る量だ、月に3回ぐらいものすごい雨、会場内を川のように流れ、側溝から溢れた雨水が作りかけの広場を削り一からやり直しの場所もあった。我が現場は会場でも高い位置にあり、他からの雨水の影響は受けずに済んだ。

10月中旬乾期に入り、雨期とはそのように違い日照りの毎日、灌水が大変な季節になった。(写真4)

朝なんとなく静かな感じがした、車の音も少なく人の声も聞こえない、何かいつもと違う朝、タイのテレビは全局で同じ物を放映している。  
外国のCNNだけが映り、クーデターのニュース信じられないより、何が起きたのか分らない。しばらくすると会社から「クーデター大丈夫か」と連絡があったが、いつもより穏やかな朝に思えた、チェンマイの学校や役所が休みなくらいで平穏なもの、クーデターと感ぜられるのは空港付近の軍隊による警備だけで、現場の作業は通常通り行われ、博覧会場も変化なく、いつもの活気のある会場内の様子だった。

#### タイのスタイル

(写真2)

#### 雨期

(写真3)

#### クーデター

(写真4)

#### 事務局の動き

- 【6月】
- 1金・第1回通常理事会
- 2土・全国「みどりの愛護」の集い
- 4月・東京多摩地域への花博誘致の集い
- 公共建築協会「官公庁共通仕様書」についてのヒアリング
- 5火・7日本造園修景協会理事
- 6水・街路樹樹形再生エキスト編集会議
- 入札契約制度対応分科会
- 7水・国土交通省要望書提出(総合評価落札方式の運用について)
- 8金・07全国日本グリーンサムミット「秋田大会」10日
- 11月・国際交流推進専門部会
- 12火・建設産業専門団体連合会中部地方整備局意見交換会
- 15金・(独)雇用・能力開発機構雇用改善助成金説明会
- 18月・建設業適正取引推進機構評議員会
- 19火・自然環境共生技術協会理事會・総会
- IFPRAジャパン理事會・総会
- 20水・平成19年度通常総会
- 正副会長・常設3委員長合同会議
- 21木・建設産業専門団体連合会総務部会
- 26火・民間都市開発推進機構理事会
- 4水・街路樹樹形再生エキスト編集会議
- 5木・「広報日造協」編集会議
- 6金・造園基幹技能者制度推進協議会土木系分科会
- 13金・造園基幹技能者運営委員会
- 17火・全国事務局局長会議
- 19木・植栽基盤診断士認定審査委員会
- 23月・入札契約制度対応分科会
- 造園基幹技能者制度推進協議会

#### 感謝

暑いチェンマイでの5ヶ月間、長いようで短い期間に感じられ、私たちも一度は体調を崩し入院や休みを取る事もりましたが、タイの関係者に日常の生活も助けられ、無事に現場を終わることができました。  
現場を進めるに当たり、

イ博覧会関係者の助け、日本政府関係、日本国チェンマイ総領事館、ロイヤルフローララーチャブルック2006日本庭園共同出展実行委員会、会社関係の方々のバックアップにより速やかに現場を進めることができた、私たちが現場チームは大変感謝しております。



# 総・支部 だより

各総支部・支部からの記事を紹介します

## 第24回全国都市緑化ふなばしフェア開幕にむけて

千葉県支部

第24回全国都市緑化ふなばしフェアは本年10月2日(火)から11月4日(日)の34日間、千葉県船橋市において開催されます。

ふなばしフェアのテーマは「子どもたちの幸福な未来」アンデルセンから世界の子どもたちへの贈りもの」。会場は彩り豊か

かなたさんのお花と緑にあふれる船橋市アンデルセン公園です。会場は緑や自然の大切さを肌で感じていただき、身近なところから緑化を推進し、船橋市をはじめとする多くの市町村が緑豊かな潤いのある都市として発展することを期して開催されます。

千葉県内での全国都市緑化フェアの開催は平成7年以来12年ぶりとなりますが、経営環境は12年前とは比較

にならないほど厳しくなっており、造園業界としての取り組みはどうしても消極的になりがちです。しかし、千葉県造園緑化工業協会と連携し、また支部としても有志から賛助金の協力を仰ぐなど協力を進めたいと考えています。

また、千葉県支部における「全国造園フェスティバル2007」の二環として10月6日〜8日にふなばしフェアの会場においてイベントを開催するなど相乗的な効果を期待して作戦を練っているところです。

第24回全国都市緑化ふなばしフェアへ全国各支部の皆様をはじめ多数の方々のご来場をお待ち申し上げます。

支部からの出展は「匠の庭」の1区画50m<sup>2</sup>を予定しています。

また、この講習会は、造園CPDプログラムとして実施しました。

「花と緑で美しい日本を」をメインテーマに日造協会員の企画・主催で全国一斉に開催する「全国造園フェスティバル」を10月6日〜8日を中心に実施します。

現在開催委員を募集しております。詳しくは日造協HP(www.jalc.or.jp)をご覧ください。

（支部長・栗木修一）



ふなばしアンデルセン公園

## 道路緑地と街路樹 管理問題解消めざす

福井県支部

福井県嶺北部を南北に走る主要国道8号線と、嶺南部を東西に走る主要国道27号線は、福井県内の陸上交通の要です。特に8号線は

交通規制による渋滞や、莫大な処分費等といった諸問題解消のため、防草シート

の活用や除草剤散布等の試験施工を行い、それぞれに結果をまとめました。

当支部では、比較的結果のよい除草剤散布による防草について、複数薬剤のそれぞれの特徴を生かした組合せや、散布時期等について更に試験を行い、既存街路樹への影響と除草作業期間の短縮、処分費軽減等について追跡調査を行い、結

果を取りまとめ、国土交通省新技術情報提供システム(NETIS)への登録を目指しています。

また、同システムの活用も視野に入れた活動をする予定です。

本格的な農業散布の時期を迎えるに当たり、道路管理者は以前より「安全で安心な農業散布」を我々造園業者に求めています。

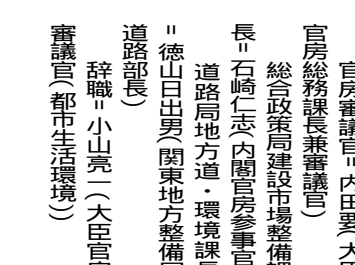
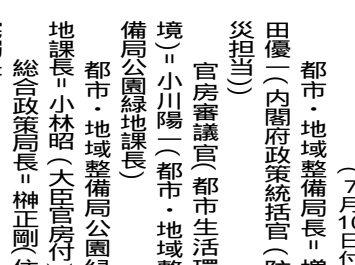
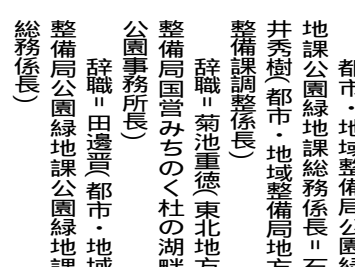
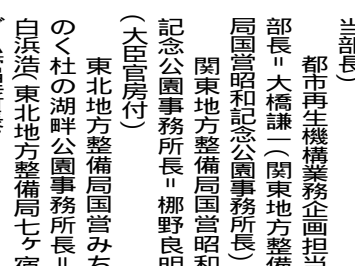
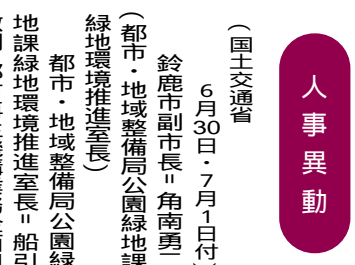
しかし、農業を取巻く環境が大きく変化し、農業取締法の改正やポジティブリスト制度の導入により、施工者の責任が益々重責となつております。

このことは、農業が必要であるがゆえに安全な使用と管理が必要であり、専門業者として差別化を図る上で重要なポイントであると考えます。

当支部では、このような農業関連法の改正に伴い、会員の資格取得(毒物劇物取扱者試験・農業管理指導士等)や農業知識、散布技術向上等の講習会を開催すると共に、適正な農業使用

（福井県支部）

（旭造園土木・渡邊俊輔）



散布直後①と89日後②

処理済の中央分離帯と未処理の歩道

## 環境教育と自然を生かした講習会を開催

大分県支部

大分県支部は5月31日、産・官・学一体となって「環境教育と自然を生かした地域づくり」と名付け、各分野3名の講師をお招きして環境教育講習会を開催いたしました。

まず、1つ目は「学校・公園等の遊具の安全管理」について、事故の事例を元に、遊具の安全に関する規程(案)の策定の経緯などの説明を受け、公園施設業界の今後の取り組みについての展望、また、日常における安全用具による

点検の手順などについての質疑応答を行い、高度成長時代にももすればなおさらになされた安全・点検について意識改革の必要性を自覚しました。

2つ目は「校庭緑化への取り組み」については、校庭緑化の受注拡大は早くから叫ばれ、受注体制の取り組み教育委員会などの発注者側への提言を行ってまいりました

が、現実には生きものである芝生の維持管理方法などの面で、なかなか困難な問題が山積しており、需要拡大に結び

つかないのが現状です。今後なお一層の研究、改善への努力を図っていききたいと思います。

最後の3つ目は「環境教育の実例と今後の取り組み」について、過去から現在への歴史をもとにした説明を受け、現在叫ばれている課題について討論を行いました。

公共工事が減少している今日、我々が地域と一体となつて取り組むべきことと認識を新たにしました。業界も今まで緑化に取り組みながら、一方で自然生態系への配慮をおろそかに考えていたことを反省し、環境教育の大切さを自然を生かした地域づくりの研修などにより、一層励みたいと思います。

なお、大分県支部では現在

また、この講習会は、造園CPDプログラムとして実施

しました。

（支部長・栗木修一）



環境教育講習会のもよう

## 「地方の楽しさ」語る

佐々木総支部長が講演

日造協総会後の講演では「楽しい地方の造園業」をテーマに、昨年「あしたのまち・くらしづくり活動」など、地元・秋田に根ざして活動する佐々木吉和・理事・東北総支部長が

数ある企業から、最高賞の内閣総理大臣賞を受賞、6月の「グリーンサムサミット」など、地元・秋田に根ざして活動する佐々木吉和・理事・東北総支部長が

講演。地域があつてこそ自分たち、こつた視点での取り組みが大切だと思うなどと語った。



（7月10日付）

官房審議官「内田要大臣

官房総務課長兼審議官

総合政策局建設市場整備課

長「石崎仁志(内閣官房参事官)

道路局地方道・環境課長

「徳山日出男(関東地方整備局

備局公園緑地課長)

辞職「小山亮一(大臣官房

審議官(都市生活環境)

住宅局長)

## 人事異動

(国土交通省)

6月30日・7月1日付)

鈴鹿市副市長「角南勇二

(都市・地域整備局公園緑地課

緑地環境推進室長)

都市・地域整備局公園緑

地課緑地環境推進室長「船引

敏明(都市再生機構業務企画担

当部長)

都市再生機構業務企画担当

部長「大橋謙一(関東地方整備

局国営昭和記念公園事務所長)

関東地方整備局国営昭和

記念公園事務所長「柳野良明

(大臣官房付)

東北地方整備局国営みち

のく杜の湖畔公園事務所長「

白浜浩(東北地方整備局七ヶ宿

ダム管理所長)

都市・地域整備局公園緑

地課公園緑地課総務係長「石

井秀樹(都市・地域整備局地方

整備課調整係長)

辞職「菊池重徳(東北地方

整備局国営みちのく杜の湖畔

公園事務所長)

辞職「田邊貴(都市・地域

整備局公園緑地課公園緑地課

総務係長)

(7月10日付)

官房審議官(都市生活環

境)「小川陽一(都市・地域整

備局公園緑地課長)

都市・地域整備局公園緑

地課「小林昭(大臣官房付)

総合政策局長「榎正剛(住

宅局長)